

本校では5月の体育大会を10月に延期して開催する事にしました。まずは、大会の目的を再確認し、①生徒が練習し達成感を感じる②集団としての団結力を高める③体育の授業との関連性を強める④新型コロナウイルス感染症への対応ができるという四点を目標としました。

また、個人競技は中止し、学級対抗競技や団対抗競技は実施をすると方針を決め、生徒会も含めアイデアを募りました。学級対抗競技は、例年の「ムカデ競争、台風の目（五人組で1列になり途中の旗を回る競技）」をなくし、「バレーボールを何回パスでつなげるか」という競技や「サッカーのパス回しをどれだけ速くできるか」といった競技を開発。



バレーボールを使った新競技の様子

団対抗の競技も、例年の「綱引き、長縄跳び、棒ひき（団ごと）に竹の棒を取り合う競技」をなくし、団ごとの音楽や太鼓を使った表現活動にしました。さらにこの競技の採点基準に「コロナ対策をしているか」という

新しい形の体育大会をめざして

観点を入れ、生徒にディスタンスをとる工夫とか、大声を出さないで表現する工夫をすること促しました。以上のような改善により、練習の時点から密にならず取り組むことができ、生徒は連帯感や達成感を感じることもできました。そして何より、

新しい形の体育大会を作るんだという気概が生徒に湧き上がりました。また、生徒の頑張りにより、体育の授業で学習する技能の向上もできたようです。

大会当日は、スペースを十分にとって生徒席を割り振り、その分、入退場門を廃止し各テントから直接各競技に参加させました。また、参観者を三年生の保護者に限定、一、二年生の保護者には、ZOOMによるライブ配信を四つのカメラから行いました。また、手洗いをスムーズに行うため給水タンクを八ヶ所設置したり、県内の工業高校の生徒が作成した自動手指消毒器を5台借用したりしました。今後の総合の時間で、この装置の作り方を学習し、隣接する小学校や幼稚園に寄贈する予定です。



団対抗の表現活動の様子